



室蘭工業大学

学術資源アーカイブ

Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive



序文

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2018-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木幡, 行宏 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009610

序 文

近年、地球規模の気候変動により、世界各地で巨大災害が発生している。わが国においても、台風の大規模化、集中豪雨・ゲリラ豪雨の頻発により、大規模な洪水や土砂災害あるいは海面上昇の継続に伴う高潮災害など、自然災害が激化傾向にある。また、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震はマグニチュード9.0の巨大地震となって、津波による激甚災害となった。さらに、2016年4月14日及び4月16日に発生した熊本地震では、マグニチュード6.5、7.3で、ともに震度7を記録し、これまで経験したことがない二つの断層帯が連動することで発生した連動型地震であった。わが国で死者千人以上となる「国難」災害は、西暦800年代の富士山・貞観大噴火、貞観地震、仁和南海地震の3連動、1700年代の元禄地震、宝永地震、富士山宝永噴火の3連動が記録されている。地球規模では、マグニチュード8.0以上の巨大地震の発生後、1年以内に火山の大噴火が発生していることから、先の地震に引き続き、今後、富士山噴火と南海（東南海）地震（3連動）あるいは首都圏地震、富士山噴火、南海（東南海）地震（4連動）の発生が懸念されており、さらには、大規模な高潮・洪水・斜面崩壊が複合災害の形で来襲する危険性が増加している。したがって、災害対策においては、従来の被害先行型から対策先行型への変革が、喫緊の課題となっている。

北海道においても例外ではなく、2014年9月には前線に伴う豪雨により恵庭岳において大規模な土石流が発生し、国道453号線が寸断された。また、2016年8月には平成28年8月17日～23日の1週間に3個の台風が北海道に上陸し、道東を中心に大雨により河川の氾濫や地盤災害が発生した。また、8月29日から前線に伴う降雨があり、その後、台風第10号が北海道に接近し、30日から31日の深夜にかけて、日勝峠周辺等では、局地的な非常に激しい豪雨となり、降り始めからの雨量は488mmを記録した。この豪雨は、各地で観測史上1位となるような記録的な大雨を降らせた。これらの豪雨によって、各地で河川氾濫に伴う堤防の崩壊や、河川に近接した道路路盤の流出、斜面や盛土の崩壊など、甚大な地盤災害が発生した。

本紀要は、2016年8月の北海道豪雨による災害について、本学、くらし環境系社会基盤ユニット所属教員のうち、本学で公募された「平成28年度室蘭工業大学台風災害緊急調査支援補助事業」に採択された水文学・河川工学分野、地盤工学分野、交通計画工学分野、災害廃棄物工学分野の調査研究による研究成果を論文として報告したものである。2016年8月北海道豪雨で何が起きていたのかを、多角的視野から全体像が把握できるものと確信している。今後の災害対策の一助になれば幸いである。

くらし環境系領域社会基盤ユニット
ユニット長
木幡 行宏